

●演習ワークシート

演習日： 月 日

研修生番号：

研修生氏名：

事例 1

症例：4歳，女児

既往歴：てんかん（ドラベ症候群）にて抗てんかん薬内服中

現病歴：外出中15時ごろ自家用車内で全身けいれんを認めた。

熱感あり。手持ちのダイアップを挿肛し、当院へ連絡。自家用車で直接来院。

演習課題 1

来院までに準備すべき物品を考えてみましょう。

（※薬物以外の物品も含めて考えてください）

●演習ワークシート

事例 1 続き

病院到着（15時15分）

けいれんは停止していた。閉眼していて、刺激すると手で振り払おうとする。

15時30分 一旦覚醒し、経過観察入院となった。

17時00分 付き添っている母親より「けいれんしました！」とNsコールあり。

訪室すると、開眼し、顔・眼球は右上方を向き、右上肢を伸展、左上肢を屈曲、硬直させていた。

演習課題 2

発作型はどうですか？

●演習ワークシート

事例 1 続き

訪室後
眼球上転, 口唇チアノーゼ, 四肢強直
先週, 保育園で体重 13kg との情報

演習課題 3

静脈路の確保が困難です。
①どのような薬剤を
②どのような経路で
投与しますか？

●演習ワークシート

事例 1 続き

17時05分：
ミダゾラム頬粘膜投与を行った。
発作は10分で停止したが、その後入眠した。

演習課題 4

このあと何を観察しますか？

●演習ワークシート

事例 1 続き

19時（発症後4時間）

入眠中であつたため、痛み刺激を加えてみると開眼した。

その後名前を確認しようとする「帰るー」と言って興奮し、手足をばたつかせ、制止を振り払おうとした。

演習課題 5

意識レベルはどうですか？

手順書

抗けいれん剤の臨時の投与（永瀬裕朗作成）

【当該手順書に係る特定行為の対象となる患者】

1. てんかん（症候性含む）と診断確定している患者で、
2. 持続するけいれん発作が重積している場合

【看護師に診療の補助を行わせる患者の病状の範囲】

以下のいずれもあてはまる

- 低血糖が除外されている
- 心臓性失神が除外されている
- ジアゼパムのアレルギーがない
- 治療中の急性狭隅角緑内障がない
- 治療中の重症筋無力症ではない
- リトナビル（HIV 感染症治療薬）投与中でない
- 静脈確保および静脈内薬液投与が可能な状態である

病状の範囲外

あてはまらないものがあれば、担当医師の携帯電話に直接連絡

病状の範囲内

【診療の補助の内容】

抗発作薬の臨時投与（ジアゼパム、ミダゾラム、ロラゼパムなど※投与量は備考欄参照）
静脈投与、もしルート確保困難なら非静脈投与も考慮し、投与後に経過観察

発作が消失しない場合は、同じ治療薬を同じ量追加し、医師に報告

【特定行為を行うときに確認すべき事項】

- 発作が消失しない
- 新たな神経症状の出現
- 覚醒遅延や非けいれん性発作を疑う症状

どれか一項目でもあれば、担当医師に直接連絡

担当医師の携帯電話に直接連絡

【医療の安全を確保するために医師・歯科医師との連絡が必要となった場合の連絡体制】

担当医師：（携帯番号）

【特定行為を行った後の医師・歯科医師に対する報告の方法】

1. 担当医師の携帯電話に直接連絡
2. 診療記録への記載

【備考】診療の補助を行う際に必要な行為

1. 要員の確保
2. 心電図モニタ，経皮酸素飽和度モニタ装着
3. バッグバルブマスクの準備
4. 気道確保
5. 末梢静脈路確保 / ルート確保困難時は非静脈投与の準備
（※選択薬剤の体重あたりの投与量は別添資料 1,2,3 参照）

別添 1 : 小児における抗発作薬 (発作中) の投与量

経静脈投与の場合

- ジアゼパム : 0.3-0.5mg/kg (最大 10mg) を緩徐に静脈内投与
- ミダゾラム : 0.15mg/kg を 1mg/分の投与速度で静脈投与 / 追加投与は 0.1~0.3mg/kg の範囲内で、総量 0.6mg/kg を超えない。
- ロラゼパム : 生後 3 か月以上の小児にはロラゼパムとして 0.05mg/kg(最大 4 mg)を静脈内投与 / 追加投与は 0.05mg/kg で総量 0.1mg/kg を超えない。

別添 2 : 小児における抗発作薬 (発作中) の投与量

非経静脈投与の場合

ミダゾラム頬粘膜投与 (ブコラム®)

- 3 か月~1 歳未満 0.5ml
- 1 歳~5 歳未満 1.0ml
- 5 歳~10 歳未満 1.5ml
- 10 歳~18 歳未満 2.0ml

ジアゼパム経鼻投与 (スピジア®)

患者の年齢及び体重			投与量
2 歳以上 6 歳未満	6 歳以上 12 歳未満	12 歳以上	5mg
6kg 以上	10kg 以上	14kg 以上	
12kg 未満	19kg 未満	28kg 未満	
12kg 以上	19kg 以上	28kg 以上	10mg
23kg 未満	38kg 未満	51kg 未満	
23kg 以上	38kg 以上	51kg 以上	15mg
	56kg 未満	76kg 未満	
/	56kg 以上	76kg 以上	20mg

投与量	用いる製剤	投与方法
5mg	スピジア点鼻液 5mg	片方の鼻腔 1 回
10mg	スピジア点鼻液 10mg	片方の鼻腔 1 回
15mg	スピジア点鼻液 7.5mg	両方の鼻腔 1 回ずつ
20mg	スピジア点鼻液 10mg	両方の鼻腔 1 回ずつ

別添 3 : 小児における抗発作薬 (発作中) の投与量

非経静脈投与の場合

ミダゾラム注射製剤 (0.5%製剤) を使用した非経静脈投与 (適応外使用)

- 筋肉内投与 : 0.5mg/kg (最大投与量 10mg)
- 鼻腔内投与 : 0.2mg/kg (最大投与量 10mg)

ジアゼパム注射製剤を使用した非経静脈投与 (適応外使用)

- 直腸内投与 : ジアゼパム注射製剤を初回量 0.3-0.5mg/kg を原液で直腸内に緩徐に注入